

## 令和2年度第1回仙北市総合政策審議会 議事要旨

- 日 時 令和2年7月29日（水）13時30分～15時30分
- 会 場 仙北市役所田沢湖庁舎3階 第1会議室
- 出席委員 中村正孝会長、能美忠堯副会長、相馬博之委員、新山睦子委員、市川晋一委員、菊地道彦委員、赤上マツ委員、佐藤和志委員
- 欠席委員 小原圭介委員
- 市 門脇光浩市長、小田野直光地方創生・総合戦略室統括監、  
島山徹地方創生・総合戦略室長、杉村真枝地方創生・総合戦略室係長、
- 事務局 大山隆誠総務部次長兼企画政策課長、齋藤洋企画政策課参事、  
永井尚企画政策課課長補佐

### 1 開会

司会進行 大山隆誠総務部次長兼企画政策課長

### 2 市長あいさつ

#### ○門脇市長

第1回仙北市総合政策審議会ではありますが、今回皆様方には大変重要な内容のご審議をいただかなければいけないと思っております。それは、世界的に感染拡大している新型コロナウイルスの関連に対するさまざまな取り組みということになります。

私の想いを少しお話しさせていただきたいと思えます。この内容は7月20日に仙北市の部長会議において職員の幹部の方々に、これから着手しなければならない総合計画後期計画や総合戦略において、このような指針を持って、その道筋というものをなんとかご理解いただきたい、という内容の発言であったので、皆様方にもお話しさせていただきたいと思えます。

「新型コロナウイルスの世界的感染やその防止対策で、これまでの常識や価値観が一変しました。現状下で、基本構想に掲げた市の目指す姿「小さな国際文化都市」をこの後の5年間も掲げ続けることは困難で、そして不適切ではないかという想いに至りました。したがって、いったんこの看板は下ろさせていただきたいと思えます。市民の生命と財産を守る行政として、本質的な役割を果たすことに重点を移したいと思えます。後期計画や総合戦略は、右肩上がりの期待値が踊るようなものにはなりません。また、例えばですが、観光など入込み数の増加を成果と捉えるような内容にはしないでいただきたいと思えます。これまでの評価指数ではない、それは満足度だったり幸福度だったり、量より質の時代に転換していることを感じて、市民にこれが伝わるような新たな評価指数を産み出していきたい。

SDGsは、今後のコロナ対策5か年計画以降も、2030年までは全ての人類の共通目

標です。今回策定する後期計画や総合戦略は、そのスタート地点からSDGsの基本理念「誰一人とり残さない」を念頭に作業を進めていただきたいと思います。

そもそもコロナウイルスの発症から感染拡大など、それまでの私たちには考えられない事案が発生しております。ですから、その対策もこれまでの常識や価値観を尺度にしていたら、有効な政策を打ち出すことはできないと思います。もしもウイルスの再燃で、世界中の食糧・日用品・エネルギー市場がストップする事態が起こり、まさに世界大戦状態となった時でも、仙北市は市民を守ることができる、そんな行政の取り組みを今回の後期計画・総合戦略にしっかりと描き出して欲しいと思っています。私はこれまで、特に農業・商工観光業・教育・福祉医療を例にとり、たとえばということで食糧自給と地産地消・県民・国民を対象にした観光素材の磨き上げ、高齢者や障がい者、子ども達に優しいまちづくり、キャッシュレス・タッチレス、リモートワークとリモート学習、小・中学校の職業学習、持続可能な市民病院・診療所経営などをお話ししてきましたが、これにこだわらず、たくさんの想いをもって後期計画や総合戦略にその想いを描き出してください。また過疎の優位性・安全性を徹底的に意識してください。情報技術や社会資本の整備には率先して取り組んでください。それらは移住定住対策の新しい力になると思います。全くこれまでとは違ったアプローチで、移住・定住対策を検討してください。困難な5年を乗り切る5年とできるかどうか、今日から本格的な作業が始まったと思います。」

という話をいたしました。まさにスタートがこの会議であります。このあと多くの方々のご議論があるかとは思いますが、まず委員の皆様徹底してたくさんの想いをこの計画等に落とし込んでいただければありがたいと思います。新たな価値の創造づくりにどうかご協力をよろしくお願いいたします。

### 3 委嘱状交付

### 4 委員自己紹介

#### ○相馬博之委員

仙北市商工会からの推薦ということで今回委員に委嘱していただきました、株式会社相馬の相馬博之です。どうかよろしくお願いいたします。

#### ○市川晋一委員

仙北市医療協議会の会長をやっております、西明寺診療所の市川です。よろしくお願いいたします。私このたび角館ブロック会の会長を拝命しましたが、思えばあれだけたくさん角館で開業されていた先生が、今は少なくなってしまいました。しかもほとんどのお医者さんは後継者がおらず、後継者がいてもおそらく秋田にはもどってこないという事態になっています。これまで私は病院のことばかり考えていたわけですが、これからはこの問題について行政と病院と連携し、取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○新山睦子委員

角館に住んでいる新山睦子です。仕事柄、学校関係や教育の分野では意見が出せるかとは思いますが、自分のわかる範囲でみなさんと協力できたらと思っています。よろしくお願いいたします。

### ○菊地道彦委員

私も商工会に属しまして、菊地商会という会社を経営しておりますが、角館小学校 PTA 会長と仙北市 PTA 連合会の会長も努めさせていただいております。新山さんと同じように子ども達や学校のことでは意見が出せるかもしれません。総合的に話してできることは少ないかもしれませんがよろしくお願いいたします。

### ○能美忠堯委員

仙北市社会福祉協議会の会長を務めております能美でございます。現在、社会福祉協議会でも高齢化社会ということでいろいろな活動しております。その分野で何か意見が出せるかもしれませんので、どうかよろしくお願いいたします。

### ○中村正孝委員

生保内に住んでおります中村です。無職でございますが副業は家庭菜園採取といえるかもしれません。長い間委員を務めてきましたが今回もご指名をいただきました。あまりお力にならないかもしれませんが、がんばっていきたいと思いますのでどうかよろしくお願いいたします。

### ○赤上マツ委員

仙北市で最も密でない上檜木内に住んでおります。密でないことがありがたいと思ったのが、今回のコロナウイルスの事件でございました。冒頭で市長がおっしゃった過疎の優位性・安全性を実感しております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 5 職員紹介

### 6 仙北市総合政策審議会について

- ・仙北市総合政策審議会条例

【資料1】について事務局より説明。(齋藤参事)

- ・これまでの総合政策審議会の開催状況と今後の開催予定について

【資料2】について事務局より説明。(齋藤参事)

## 7 各計画（第2次仙北市総合計画、仙北市総合戦略、仙北市新市建設計画）の位置づけについて

【資料3】について事務局より説明。（永井課長補佐）

## 8 審議案件等

### （1）会長、副会長の互選について

・会長 中村正孝委員、副会長 能美忠堯委員 に決定。

### （2）仙北市新市建設計画の変更について

【資料4】について事務局より説明。（齋藤参事）

### （3）第2次仙北市総合計画基本計画（後期）及び 仙北市総合戦略の策定・改訂方針について

【資料5】について事務局より説明。（齋藤参事）

### （4）第2次仙北市総合計画基本計画（後期）の策定について

【資料6】について事務局より説明。（畠山室長）

### （5）仙北市総合戦略の改訂について

【資料6】について事務局より説明。（畠山室長）

## 質疑応答

### ○新山睦子委員

・市営住宅入居率が目標達成されていないが、例えば求職・求人のマッチングアプリを活用するなど幅広く募集できないか。

・特定健診の受診率が低い。不要の市民もいると思うので、そういう方達から事前に回収して受診率を上げたらどうか。本当に必要な人への措置にしてほしい。

・英語検定以外の数学や自然科学などへの支援もしてほしい。

### ○門脇市長

・JA あきた白神が農業団体や法人と働き手をマッチングするスマートフォンのマッチングアプリを導入した。仙北市でも農業分野に加え、観光や福祉、建設といったいろいろな業界の人手不足が顕著になってきているため、求人求職のマッチングするアプリを今開発してもらっているところである。市営住宅の入居に対しても、このようなアプリを活用したらどうかというご指摘だったと思う。

### ○小田野統括監

・アプリはたしかにスマート分野では活用されているので、ひとつのアイデアとしていただいでおく。というのも、先ほど市長よりJAのアプリのお話があったが、あれは仕事を持っている人と仕事を探している人をただつないでいるが、直接JAが入っていない。あくまでもそういう

アプリがあるので使ってくださいというもの。今回市営住宅はあくまで市の設備なので、そこがうまく機能するか検証が必要である。いずれにしろ、いろいろな分野でそのようなアプリを活用するシーンがでてくるかもしれないが、検討させていただきたい。

#### ○門脇市長

・8月にアプリの運用がスタートできると思う。アプリの開発者が言うには、仙北市の場合は人口が26,000人なので、その中で全ての業界に人手を集めるということは無理だと言っている。しかし、仙北市は盛岡市や秋田市や大仙市といった人口集積地に近い。アプリの場合はそういう利を使って求職の枠を仙北市に限らなくても良いのではないか。そうすると市外から働きにくる。そうすると消費が生まれるといったうま味もあるみたいである。

#### ○市川晋一委員

・特定健康受診率は、定期的に診療を受診している方が受けないため実質的にはもっと高いと感じている。受診後に再検査を受けないことが問題。健診会場が少ないことも要因。以前は集落単位を会場にしていたが、人口減少に伴って会場も少なくなった。

・医師不足について、秋田県内の医学部への進学率が低い。小中学校の学力に比べ高校生の学力が低い。全国で医学部入学者は毎年9,000人程度だが秋田県は40人程度。門戸を広げること、人材を育てることが重要。

・病院事業管理者に良い人材を引っ張ってくる。院長が替わり雰囲気は良くなった。

・医師不足で医療現場は疲弊している。日本では公立病院はほぼ赤字経営となっている。

#### ○赤上マツ委員

・仙北市から出て行ったとしても、いずれは仙北市に帰ってくるように学校でのふるさと教育に取り組んで欲しい。

・NHKのど自慢の誘致。

#### ○中村正孝委員

・空き店舗を活用して、在宅ワークやリモートワーク、ワーケーション環境の整備を行ってはどうか。その際、なぜ空き店舗となったかの分析は必要。そもそも不便な立地であれば整備しても活用されないこともある。

・現状を売り物にできる政策やイベントが必要。

#### ○佐藤和志委員

・「過疎地域＝ダメな所」から「過疎地域＝生活するには良い場所」に変わってくる。それを理解した上で策定してほしい。

・仙北市で東北大会や全国大会を開催できるような核となる施設がほしい。経済波及効果も大きい。(総合体育館の建設)

- ・こどもの数が少なければ少ないほど予算をかけるべき。

#### ○相馬博之委員

- ・今後、地場産業の廃業や倒産が増えてくると思う。M&A や合併への補助制度について検討してほしい。
- ・事業承継、従業員の身分（雇用）保障、企業誘致（工業団地）の推進。
- ・人口減少に歯止めをかけるため、住宅団地の整備（宅地造成）を進めてほしい。

#### ○菊地道彦委員

- ・リモート学習について青森が進んでいる印象を受ける。仙北市でも教育現場の IT 環境の整備を進めてほしい。登校拒否児童への対応も可能となる。
- ・台湾姉妹校とのリモート交流も検討したらどうか。角館高校生による英語サポートなどの連携もできるのでは。

#### ○門脇市長

- ・事業承継については取り組みたいが、そもそも流行っていない事業は困難。
- ・人事育成については次世代のための環境整備を含め重要。人口減少が見込まれる中、行政がすべてカバーするのは限界がある。市民活動を支えることも重要。

## 9 閉会